

## 速報

## 奄美大島産野生きのこについて\*1

根田 仁\*2 · 宮崎 和弘\*2 · 下園 寿秋\*3 · 岩元 高治\*4  
 税所 博信\*5 · 重森 宙一\*6

## I. はじめに

奄美大島は、亜熱帯にあり、特有の植物の生息する島として知られている(片野田, 1999)。菌類については、1855年にアメリカの調査隊が来島し、1860年にハツタケを報告しているが(Berkeley and Curtis, 1860)、その後の報告は少ない。本島に分布する野生きのこを調査し、その発生の様式を解析した。

## II. 調査方法

1996年より2001年まで6回、調査地をまわって発生する野生きのこの子実体を採集する一斉調査を実施した(表-1)。採集した子実体は、乾燥標本にして、同定に供した。また、一斉調査以外にも、随時発生の確認されたきのこについては採集を行い、標本とした。

きのこの発生量の表し方として、種数(岡部, 1983)、子実体本数(相良, 1964)などがあるが、本調査では、発生点数(標本数)を発生量とみなすことにした。別の調査場所で発生したものは、同日、同種でも別標本として取り扱い計数した。

## III. 結果および考察

## (1) 野生きのこの採集

全期間で、554点の標本を得た。このうち、属名の判明したものは457点、種名の判明したものは141点だった(表-2)。3~5月、8~10月のデータが不足しているため、6~7月と11月~2月のデータを比較した。

## (2) 主な野生きのこ

リュウキュウマツ林内に発生するきのこは、九州以北のマツ林におけるきのこの共通種が多く、ハツタケ、アマタケ、チチアワタケ、オウギタケの発生期間は、12~2月だった。シイ林などの常緑広葉樹林では、シロハツモドキ、ウチワタケなど九州以北の常緑広葉樹林との共通種が多いが、ビロードカワキタケ、シロ

コカワキタケ、ニセキツネノカラカサ、スズメタケ、ミナミアシグロタケ、ヒダウロコタケ、エダウチホコリタケモドキなどの熱帯種も見られた。

## (3) 基物別発生点数

菌根菌が216点、木材腐朽菌が126点、落葉枝分解菌が72点、腐植分解菌が43点だった。各月の野生きのこの発生点数の基物別の割合は、6月、7月には、菌根菌と木材腐朽菌の割合が同程度だが、12月から2月は、菌根菌の割合が高く、木材腐朽菌の割合が低くなった。また11月は木材腐朽菌の割合が高かった(図-1)。

## (4) 分布域別発生点数

種名まで判明したものを分布域別にわけると、本州の落葉広葉樹林帯まで分布する種が87点、暖帯林に分布する種が16点、亜熱帯に分布する種は38点だった。分布様式別の発生点数の割合は、6月7月に比べ、12月から2月は、温帯にまで分布する種の割合が高い。また11月は熱帯種の割合が高くなった(図-2)。

## 引用文献

- Berkeley, M. J. and Curtis, M.A. (1860) Proc. Amer. Acad. Arts 4 : p.119.  
 片野田逸朗(1999)琉球弧・野山の花. 221pp. 南方新社, 鹿児島.  
 岡部宏秋(1983)京都大学農学部演習林報告 55 : 20-32.  
 相良直彦(1964)アカマツ林に発生する肉質キノコ類の菌類社会学的研究(予報). (マツタケ-研究と増産-. マツタケ研究懇話会, 223pp, マツタケ研究懇話会, 京都). 61-64.

\*1 Neda, H., Miyazaki, K., Simozono, T., Iwamoto, T., Saisyo, H. and Shigemori, T. : On wild mushrooms in Amami Ohshima Island

\*2 森林総合研究所九州支所 Kyushu Research Center, Forestry and Forest Products Res. Inst. Kumamoto 860-0862

\*3 鹿児島県林務水産部森林保全課 Forestry Preservation Division, Kagoshima Pref. Kagoshima 890-8577

\*4 鹿児島県林務水産部緑化推進室 Greenery Exp. Office, Kagoshima Pref. Kagoshima 890-8577

\*5 鹿児島県伊集院農林事務所 Ijuuin Agriculture Forestry Administraion Office, Kagoshima Pref. Kagoshima 899-2501

\*6 鹿児島県林業試験場龍郷町駐在 Tatsugo Office, Kagoshima Prefectural Forest Exp. Station, Kagoshima 894-0105

表-1. 調査年月日および主な調査地

調査年月日:		主な調査地:
1996年7月10-11日	1998年12月8-10日	名瀬市金作原, 住用村山間マングローブ林, 湯湾岳, 宇検村赤土山, 笠利町大刈山, 龍郷町本茶峠, 龍郷町長雲峠, 龍郷町大勝
1997年6月10-12日	1999年11月16-17日	
1998年2月9-10日	2001年1月29-30日	
その他, 随時		

表-2. 野生きのこ発生点数

調査月	発生点数	基物別発生点数*1				分布域別発生点数*2				
		菌根	木材	落葉枝	腐植	合計	温帯	暖帯	熱帯	合計
April	0									
May	0									
June	148	47	39	39	6	131	17	4	8	29
July	50	23	16	1	4	44	6	5	6	17
August	9	4	0	2	3	9	0	0	0	0
September	18	3	2	0	8	13	0	0	0	0
October	5	4	0	0	0	4	0	1	1	2
November	41	6	24	3	4	37	5	2	7	14
December	91	37	13	12	5	67	15	0	5	20
January	88	55	13	8	5	81	24	0	4	28
February	91	34	16	7	7	64	19	2	7	28
March	13	3	3	0	1	7	1	2	0	3
合計	554	216	126	72	43	457	87	16	38	141

\*1 属名の判明したもの \*2 種名の判明したもの

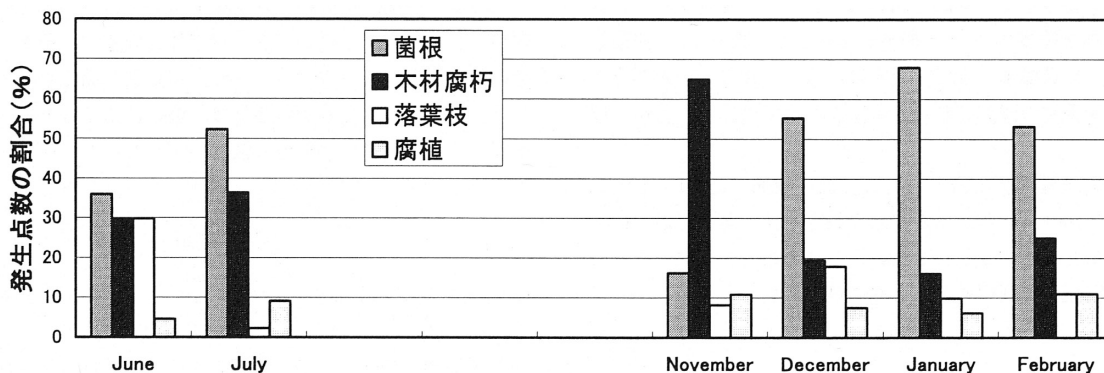


図-1. 月別にまとめた基物別発生点数の割合

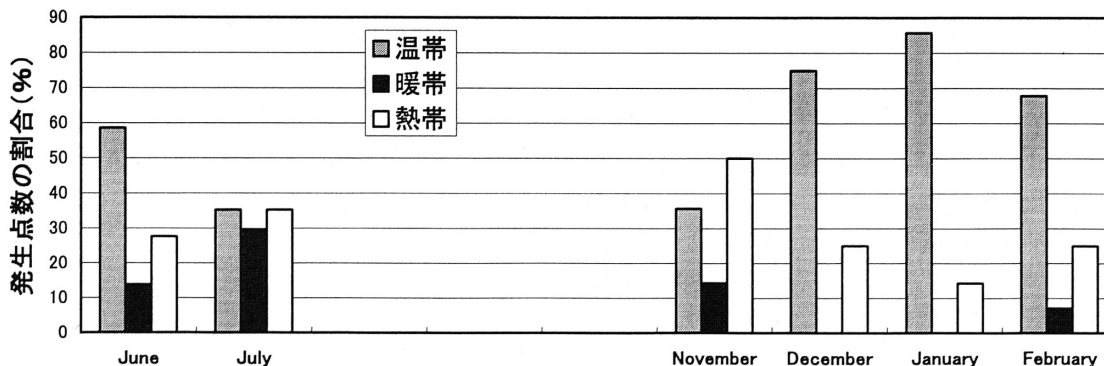


図-2. 月別にまとめた分布様式別発生点数の割合

(2001年11月23日 受理)